

"初めての社会科" 小学3年生…教科書活用のポイント②

社会科の教科書には、グラフなどの統計資料が掲載されています。

ところが、小学3年生の算数で表やグラフの学習が出てくるのは、2学期です。しかもグラフは棒グラフだけです。

このことを頭に入れて教科書を見ていく必要があります。すると、小学3年生の教科書では、さりげなく統計資料が導入されていることに気が付きます。東京書籍の『新しい社会 3・4上』の43頁には、買い物に行った店ごとの人数を調べた結果を、「家の人がよく買い物に行く店」という題の「表」にしてあります。ここでは、棒グラフについて未習の小学3年生に配慮して、数値をおはじきに置き換えて、表中におはじきを並べることで数量を視覚的に捉えやすくしています。つまり、表から棒グラフへと移行する段階の“棒グラフ的な”表なのです。

この表を読み取らせる際に、大切にしたいポイントは次のことです。



言葉と数値について一つずつ質問しながら読み取らせる。

子どもたちにとって、“棒グラフ的な”表は初めて目にするので、表に表されている言葉や数値について、丁寧に確かめながら読み取らせていく必要があります。

教 師 「表に書いてある店はいくつありますか。」

子ども 「9つです。」

教 師 「『はなれたところにある大きなスーパーマーケット』に買い物に行っている人は何人ですか。」

子ども 「15人です。」

(他の店についても、同じように買い物に行った人数を質問して読み取らせます。)

教 師 「一番たくさんの人人が買い物に行っている店はどこですか。」

子ども 「『はなれたところにある大きなスーパーマーケット』です。」

これが、グラフの縦軸・横軸の捉えにつながっていきます。

そして、表の読み取りが一通り済んだところで、次のように問います。

教 師 「この表を見て、あれっ、不思議だなって思うことはありませんか。」

子ども 「コンビニよりもスーパーに買い物に行く家の人人が多いなあ。」

子ども 「なぜ、近くよりも離れた所にあるスーパーマーケットにたくさんの人人が買い物に行くのかが不思議です。」

子ども 「近い方が買い物に行きやすいのに、なぜだろう。」

この問い合わせにより、表の読み取りから、本単元の主なねらいである「スーパーマーケットにたくさんのお客さんが来るひみつ」という学習課題へつなぐことができます。